Sports Coaching Competency Test(SCCOT)における評価規準データの収集

金高宏文，中垣内真樹，国重　徹，前阪茂樹，和田智仁，中本浩揮，有馬正人，吉原大智（鹿屋体育大学），萩原悟一（九州産業大学）

Sports Coaching Competency Test（SCCOT）とは

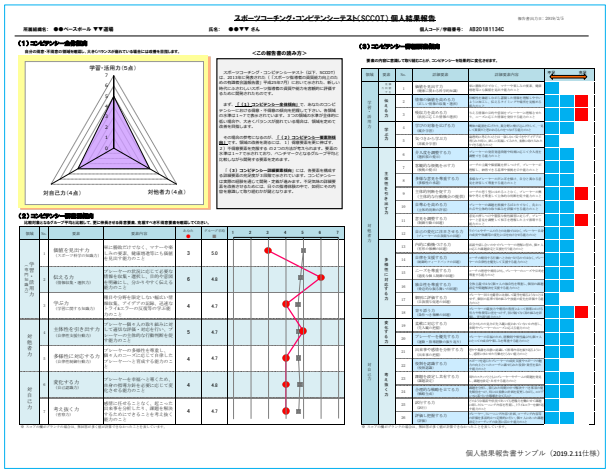
- 本テストは、日本のスポーツ界が目指している「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力 」を可視化するテストです【注】。
- 体育・スポーツに関連する教育機関や指導者養成団体では、多様で複雑なコーチング活動の中で状況に対応しながら、適切な行動・判断を行える資質・能力の育成に力を注いでいます。
- 一方で、コーチングの資質・能力の変化を把握することや、育成プログラムの改善に役立つ情報を得るための測定・評価方法については、十分に整備されていないため、本テストを開発しました。
- なお、本テストは大学教育再生戦略推進経費・大学教育再生加速プログラム（AP事業）の支援を受けて開発したものです。

- 出題される問題は以下のような特徴を持っています。

従来のテストの課題を解決するために，本テストでは下の例にあるように，一見してどちらが正解か分からないような，双方に意味のある設問を提示し，個人の判断に基づいて選択させる出題方式を取ることとした。これによって，回答時における反応歪曲等の課題の軽減を図った。

連番	A	Aにあてはまる	ややAにあてはまる	ややBにあてはまる	Bにあてはまる	B
1	スポーツを通じて，創意工夫して身体技術を会得する楽しさを学ぶことができる	1	2	3	4	スポーツを通じて，厳しいトレーニングを積み重ね，達成感や粘り強さを学ぶことができる
2	スポーツは，競い合い，勝利することが重要だ	1	2	3	4	スポーツは，勝ち負けよりも，楽しむことが重要だ
3	何かを身につける際には，興味の範囲をできるだけ広げ，多くの学びの中から気づきを得る	1	2	3	4	何かを身につける際には，学びの対象を明確にし，関連する書籍や研修を慎重に取捨選択する
4	たとえ試合前でも，全ての練習をプレーヤーの主体性に任せる	1	2	3	4	試合前でも，基本的にはプレーヤーに練習メニューを組み立てさせるが，必要と思われるポイントだけは伝える
5	プレーヤーと共に到達目標を明確にし，その道筋を話し合う	1	2	3	4	プレーヤーの特性を把握し，到達目標を提示し納得させる
6	「今日は個人で技術的な練習をしたい」というプレーヤーには，チーム全体への貢献意識が低すぎると注意する	1	2	3	4	「今日は個人で技術的な練習をしたい」というプレーヤーには，目的さえ明確なら自由に行動させる
7	過去の経験に頼って同じ指導を続けることは，指導法の退化に等しい	1	2	3	4	プレーヤーが勝手に流行のトレーニング情報を収集することはできれば避けたい
8	方向性が見えれば，話の途中でも論点を整理して自分の意見を言う	1	2	3	4	プレーヤーの意見を十分聞いてから，一緒に考えるようにする

- テスト結果の「個人結果報告書」の例



平成31年度の取組み

- 本事業は、開発した「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するテスト（Sports Coaching Competency Test ：SCCOT）を用いて、本学学生の評価規準となる基礎データの収集を目的としています。
- 基礎データ収集のためには、他の体育・スポーツ系大学の学生をはじめ、幅広い指導者へテストを実施する必要があります。具体的には、中学校運動部活指導者、スポーツ少年団指導者、国体監督等の指導者を対象として実施しました。以下の表は2019年度までに収集したデータ数（約3,000件）です。

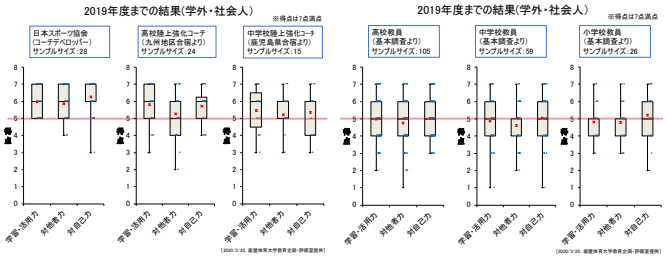
2019年度までの取り組み状況

No	データカテゴリ	グラフカテゴリ	人数
1	他大学学生関係	A大学-2018入学2年	192
2	他大学学生関係	A大学-2019入学1年	221
3	他大学学生関係	B大学-1-2015入学4年	54
4	他大学学生関係	B大学-1-2016入学3年	62
5	他大学学生関係	B大学-1-2017入学2年	68
6	他大学学生関係	B大学-2-2015入学4年	22
7	他大学学生関係	B大学-2-2016入学3年	29
8	他大学学生関係	B大学-2-2017入学2年	32
			680
9	大学院・社会人	UNIVASスポーツ指導者研	9
10	大学院・社会人	ハンドボール関係	25
11	大学院・社会人	中学教員	59
12	大学院・社会人	他大学大学院	36
13	大学院・社会人	他大学	114
14	大学院・社会人	小学校教員	26
15	大学院・社会人	教員以外社会人	158
16	大学院・社会人	教員Rセミナー	25
17	大学院・社会人	日本スポーツ協会	28
18	大学院・社会人	県中体連（陸上）	15
19	大学院・社会人	高校教員	105
20	大学院・社会人	高校陸上指導合宿	24
21	大学院・社会人	鹿屋体育大学大学院	20
22	大学院・社会人	鹿屋体育大学教員	26
			670

No	データカテゴリ	グラフカテゴリ	人数
23	NIFS-S	NIFS-S-2015入学3年	98
24	NIFS-S	NIFS-S-2015入学4年	43
25	NIFS-S	NIFS-S-2016入学2年	104
26	NIFS-S	NIFS-S-2016入学3年	111
27	NIFS-S	NIFS-S-2016入学4年	96
28	NIFS-S	NIFS-S-2017入学1年	125
29	NIFS-S	NIFS-S-2017入学2年	104
30	NIFS-S	NIFS-S-2017入学3年	138
31	NIFS-S	NIFS-S-2018入学1年12月	123
32	NIFS-S	NIFS-S-2018入学2年2月	136
33	NIFS-S	NIFS-S-2019入学1年12月	125
34	NIFS-S	NIFS-S-2019入学1年7月	114
35	NIFS-S	編入20162017入学3年	9
36	NIFS-S	編入2016入学4年	18
37	NIFS-B	NIFS-B-2015入学3年	50
38	NIFS-B	NIFS-B-2015入学4年	24
39	NIFS-B	NIFS-B-2016入学2年	42
40	NIFS-B	NIFS-B-2016入学3年	49
41	NIFS-B	NIFS-B-2016入学4年	37
42	NIFS-B	NIFS-B-2017入学1年	49
43	NIFS-B	NIFS-B-2017入学2年	49
44	NIFS-B	NIFS-B-2017入学3年	53
45	NIFS-B	NIFS-B-2018入学1年12月	44
46	NIFS-B	NIFS-B-2018入学1年2月	48
47	NIFS-B	NIFS-B-2019入学1年12月	47
48	NIFS-B	NIFS-B-2019入学1年7月	47
49	NIFS-学年不明	鹿屋体育大学学生（学年不明）	33
			1,916

テスト実施者のべ数（20200228現在）　3,266

- 収集したデータを分析し、本学学生の「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」のレベルを評価できる規準を検討しました。
- 以下の図は、コーチのコーチであるコーチデベロッパーや指導対象の年齢が異なる指導者のスコアーの分布を示したものです（7点満点です）。赤いラインが指導者の基準平均値、赤い×は各指導者グループの平均値を示しています。指導者グループによって、スコアーが違って現れていることが分かると思います。



- コーチデベロッパーや強化コーチは高いスコアーを示していました。一方、高校・中学・小学校の指導者は平均的なところ（5点）にあるようです。
- このことは、本テストが日本のスポーツ界が目指す理想の指導者を評価できるものであることや、指導者が本テストを用いて指導者としての資質・能力を自己評価・点検する必要性を示していると考えられます。
- さらに，指導者の実態を踏まえると、本学学生の評価規準は少なくとも各大項目のスコア-5点が最低条件になると考えられます。

今後の取組み

- 2020年度からは、Web上でテストが行える環境整備を行っています。
- 同時に、個人でも実施も出来る運用環境（受験料支払いシステム等）を構築しています。

【注】本テストの開発では、株式会社リアセックの協力を得ております。また、本テストの著作は、国立大学法人鹿屋体育大学が所有しております。無断で再利用することは法律で禁じられています。.